

金剛寶戒寺便

<https://www.houkai-ji.jp>

令和七年十一月一日発行 第一四〇号

檀信徒の皆さま、こんにちは。暑い夏が終わり、気がつけば晩秋の気配が深まっています。衣替えはお済みでしょうか。

十月七日から十日までの三泊四日で、高野山と京都へ団体参拝に行っていました。台風の接近で天候が心配されましたが、幸い雨に濡れることもなく、帰りの船も穏やかで、無事に参拝を終えることができました。

今回は、金剛講創立百周年の記念行事の期間中でした。高野山では一週間にわたり、御詠歌に関する法要が営まれており、私たちは九州第九地域伝道団による奥之院での御詠歌と舞踊法要に合わせて参拝いたしました。

普段は和やかな僧侶の皆さまが真剣な表情で御詠歌をお唱えになる姿、そして奥之院という聖地で寺族夫人の方々が舞う舞踊は、緊張感と荘厳さに満ちており、大変心に残るものでした。長い間の練習がそのまま表れていて、本当にお疲れ様でございました。

私が初めて高野山に登ったのは小学生の頃、雪の奥之院を父と歩いた日のことを今でも覚えています。今回の参拝は、四〇代後半から八〇代前半まで幅広い年代の方が参加してくださいました。バスの中で「今回は旅行ではなく、団体参拝という修行です」とお伝えしたこともあったか、皆さまが互いに支え合い、

手を引いたり荷物を持ち合ったりしながら、一人の脱落者もなく奥之院の石畳を歩き切ることができました。皆さまの真心は、きつとお大師さまにも届いたことと思います。

また、楽しみにしていた阿字観の体験講習では、指導の先生が昔の知人で驚きました。印象的だった言葉は、リラックスするのではなく、緊張感をもって意識的に「阿字」を観じる」という教えです。私自身、ただ「無」になるのではなく、集中することが大切だと感じていましたが、半眼と法界定印の説明を受け、あらためて深く納得いたしました。

京都では、皆さまからご要望の多かった東寺、そして私の親戚が奉職している随心院にもお参りしました。

随心院は小野小町ゆかりの門跡寺院で、快慶作の金剛薩埵像、狩野派の屏風、心字池を中心とした庭園など、歴史と雅やかさが漂っています。秘仏・如意輪観世音菩薩様も特別に間近で拝観させていただき、胸が熱くなりました。ご説明くださった親族僧侶の独特の語り口にも癒されました。

帰山後、十三日には月例の法話会を行い、今回から「六波羅蜜」のお話を始めました。六波羅蜜とは、「布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧」という六つの修行です。今月は最初の「布施」についてお話をしました。日本では布施というとお金のことを思いがち

ですが、「無財の七施（むざいのしちせ）」という、心で行うお布施もあります。

「無財の七施」とは、お金や物資がなくても、誰もが実践できる七つの布施（ほどこし）のことです。具体的には、「優しい眼差しで接する（眼施）」、「笑顔で接する（和顔施）」、「優しい言葉をかける（言辞施）」、「身体を動かして人に尽くす（身施）」、「相手を思いやる心を持つ（心施）」、「座席や場所を譲る（床座施）」、「家や部屋を貸す（房舎施）」の七つです。なぜ最初に布施がくるのか。それは、私たちの苦しみの多くが“執着”から生まれるからです。執着は物だけでなく、心にもあります。「こうでなければならぬ」「こうあるべきだ」といった思いこそ、心の中の執着です。人間関係で悩むとき、そこに固いこだわりがあるかもしれません。先入観を手放すことも、立派な布施の実践なのです。少し勇気が要りますが、ぜひ試してみてください。

法話の会

十二月八日（月曜日）十四時から

写経の会 会費千円

十二月十四日（日曜日）十四時から

いずれも檀信徒会館にて行います

気がつけば年末のご案内となりました。今年も歳末助け合い募金を行いますので、皆様のご協力をお願いいたします。

合掌